

## 令和3年度 第2回 神戸中学校学校運営協議会 実施報告書

- 1 日 時 令和3年7月6日（火）18:00～19:20
- 2 場 所 神戸中学校会議室
- 3 出席者 委員：是枝徳義，山本陽子，林佳代子，阿部雅登，兼丸良政，  
北村 武，高山 剛，木村元彦（学校長）  
教育委員会：杉谷直俊（教育支援課）  
学校教職員：草川哲郎（教頭），樋口智己（教頭），  
早川宜成（教務主任），幸田則仁（研修主任），  
扇野元美（教育相談担当）  
森下有紀（3年主任）  
欠席：松嶋康博（委員）

### 4 あいさつ（委員長）

報道では、交通事故や災害発生など様々な事故に子どもも巻き込まれていて心配している。他市町のことにとらえず、身近な問題と考え神戸中学校でも対策を考えていく必要がある。

### 5 報告

#### (1) 第1回学校運営協議会実施報告書

学校長から、事務局で取りまとめた実施報告書の確認を依頼し、了承を得る。

#### (2) 学校や生徒の様子について（別紙学校通信等）

学校長から発行済学校通信等をもとに最近の学校生活の状況について説明する。

#### (3) 令和2年度学校関係者評価における改善点の進捗状況

学校長から、令和3年6月30日時点での令和2年度学校関係者評価に基づいた改善状況について説明する。

また、研究主任から学力向上に向けた授業改善の取組状況について、グループ学習を取り入れ学びあう姿を高める授業改善や、学習ツールの一つとしてICT機器を活用したわかりやすい授業についての取組状況について現状報告を行う。

さらに、教育相談担当から長期欠席及び不登校の現状やスクールソーシャルワーカーと連携した対応策等について説明し、今後、校区小学校と連携した支援の在り方を検討していく方針などの現状報告を行う。

（委員からの意見等）

- ・新聞報道された県教委が示す不登校のデータベース化とは何か。

（学校長）不登校の背景等に応じた様々な支援策を取りまとめ、各学校での有効な改善策に反映できるような資料を提示していこうとするものにとらえている。

- ・不登校の子どもたちの進路が心配される。卒業生で進学できて嬉しいと思っているが、進学後の状況が心配される。不登校はすぐに解決できないことも多いが、支援を継続していくことが大切と思う。不登校の人数や結果を求めるだけでなく、しっかりと子どもを見守り続けることが必要と思う。
- ・不登校の内、その他とはどのような分類なのか。  
（学校長）保護者の考えや方針で登校に至っていない事例や、家庭事情での欠席、複数の要因により背景が明確でない事例などを示している。
- ・スクールソーシャルワーカーとの連携では、家庭訪問まで行っているのか。  
（学校長・教育相談担当）実際に家庭訪問を行い、福祉の視点からの支援策の検討を行っている事例がある。
- ・不登校対策にオンライン学習などの活用は考えられているのか。  
（学校長）家庭への一人一台端末の持ち帰りについては、まだ市内いずれも実施しておらず、今後、教育委員会からの指示で対応することになるので、現在はオンライン学習の実施は行っていない。  
また現在、家庭での通信環境の調査を行っているところである。
- ・一人一台端末の持ち帰りとなると、持ち運びが心配される。
- ・県立高校でも、来年度から一人一台端末の導入見込みである。中学校での実践例など大いに興味関心があるので、情報共有も行えないかと思う。  
（学校長・研修主任）クロムブックを活用した授業参観など、今後情報交換を行っていききたい。

## 6 協議（神戸中学校区危険箇所点検及び交通安全施設要望について）

学校長から、神戸中学校区各小学校での危険箇所点検の実施結果を説明し、中学校として学校運営協議会委員及びPTA役員・常任委員と連携した危険箇所点検を実施したい方針について説明する。

また、何らかの対策が必要と考えられる箇所については、交通安全施設要望について学校運営協議会委員長、PTA会長等と連名で提出する考えを説明する。

- ・通学路の安全対策や危険箇所の改善は、学校から提出されると効果的と考える。
- ・自治会だけより、学校やPTAと共同で対策を講じることが重要と考える。
- ・危険箇所の改善は中々困難としても、路面表示などの対策を講じてはどうか。
- ・ランプを施すことにも一長一短があるが、低いランプは効果的ではないか。
- ・危険な交差点について、歩車分離などを検討することも必要ではないか。
- ・危険箇所の対策の一方で、生徒が自分の目で安全を確かめ判断する力を培っていくことを忘れてはいけないのではないか。
- ・不審者対策は、まちづくり協議会と対策を相談していくことも必要である。
- ・安全対策を検討するに上では、通学路を生徒に徹底させていく必要がある。
- ・事故が発生してから対策が講じられることが多いので、必要な改善策を継続して要望していく必要があるのではないか。